



転倒災害防止対策 事例集

「転ばぬ先の杖！」

「転倒」の危険は、誰もが経験しているもので、その防止対策は事業場の業種、規模等に関係なく取り組むことが必要です。

「製造業」で取り組まれている事例が建設業で活用できる場合もあり、また、逆に「建設業」で取り組まれている事例が、製造業でも活用出来ることもあります。転倒防止対策は、比較的少ない費用で対策を行うことが出来ると思われるので、事例を参考に積極的な取り組みをお願いします。

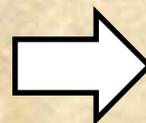
転倒に特化した「4S活動」や「KY活動」も転倒災害防止として有効です。転倒のリスクは、高年齢者になるほど高くなりますので、高年齢者に配慮した災害防止対策も重要です。

転倒災害でも骨折等の重篤災害なることもありますので、軽視することなくその防止対策に取り組むことが必要です。

転倒災害防止対策が、作業性の向上につながり、経営上のメリットになると思われるので、本事例集を参考に積極的な防止対策を行ってください。

京都労働局のホームページに別途掲載している「[転倒リスク簡易診断シート](#)」も活用し、有効な転倒災害防止対策を行って下さい。

事例 食料品製造業



滑り止めシールを貼り、防滑性を高めた。

取り組み理由

モップ掛けの後、廊下が濡れており、出入口で滑って転倒するリスク高かったため、対策に取り組んだ



効果

事務所から出た際に滑らなくなり、リスクが低減した。転倒に関する意識が高まった。

事例 食料品製造業

事業場開設当初は、終業時のみ洗浄による清掃を行っており、洗浄に従事する労働者を主眼に転倒防止対策を講じていた。しかし、品目数が増えることにより、作業時間帯の途中にも洗浄清掃が生じ、製造作業に従事する者に転倒災害が生じたことから、転倒防止を図ることとしたとのこと。

滑り転倒防止対策



(写真1 安全靴)



(写真2 前処理室床)
左側が滑りにくい床材です。

1) 作業靴

工場内の従業員(屋外、事務所は除く)は、全員滑りにくい安全靴を着用している。清掃時の長靴も滑りにくいものを着用している。(写真1 安全靴)

2) 床材

床材は滑りにくいものを選択している。(床補修時に採用している為、一部の工程のみ)
(写真2 前処理室床)



(写真3 キー材溶接)



(写真4 滑り止めシート)

3) 作業架台(SUS製)

工場内の作業架台階段部分には滑り止めとして
①キー材を溶接し滑り止めとしている。(通行頻度、清掃頻度が高いところ)
(写真3 キー材溶接)
②滑り止めシートを貼り付けしている。(通行頻度、清掃頻度が低いところ)
(写真4 滑り止めシート)



(写真5 立看板)

4) 注意喚起

清掃は工程毎でタイミングがずれる為に、立看板で表示する様にしている。
(写真5 立看板)

対策の効果として…

導入に際して予想したよりも、滑らないとの評であるとのこと。

事例 窯業

取り組み理由

場内なる「ちょっとした段差」で躓き転倒する“ヒヤリ・ハット”が多発したため、段差や階段、ステップなどについて、対策を実施しました。



階段の滑り止め



階段のステップに黄色で注意喚起



段差注意表示



路面の段差は黄色で注意喚起

対策の効果

毎年ヒヤリ・ハットで一番多いのが、「転倒」でしたが、全従業員に周知したことで、今年になってから、大幅に減少しました。

事例 金属製品製造業

取り組み理由

冬季に通路が凍結することがあり、これによる転倒災害も発生した。

対策の内容

歩行者用通路を、透水性舗装(路面への降水が、舗装及びその下の地層に浸透する)に変更した。
併せて通路から厚生棟への入口部分に、泥落としマット及び水拭きマットを設置した。



対策の効果

冬季でも凍結が発生しなくなり、また、降雨時でも水たまりが生じなくなった。

透水性舗装

泥落としマット

水拭きマット

事例 電子機器用・通信機器用部品製造業

階段の滑り止めを色分けし、さらに残数を表示し注意を促している



昇降時の注意表示



扉の向こうに人が近づくとパトライトが点灯する



取り組み理由

- ・階段で降りる際、最後付近で階段を踏み外し転倒することがある。
- ・防火扉のため相手側が見えず、扉が開いてぶつかり転倒することがある。

効果

- ・視認性が向上し踏み外しが激減した。
- ・相手側の動きがわかることによって注意することが可能となり、ぶつかることがなくなった。

事例 電気機器製造業

取り組み理由

階段登り口の扉を開いた際に、階段を上ってきた人に扉が当たりそうになり、転落する危険性がある。



階段登り口の扉側の手摺を、階段中央側に約40cm湾曲させた。



効果

階段を上ってきた人に扉が当たる危険性が軽減できた。

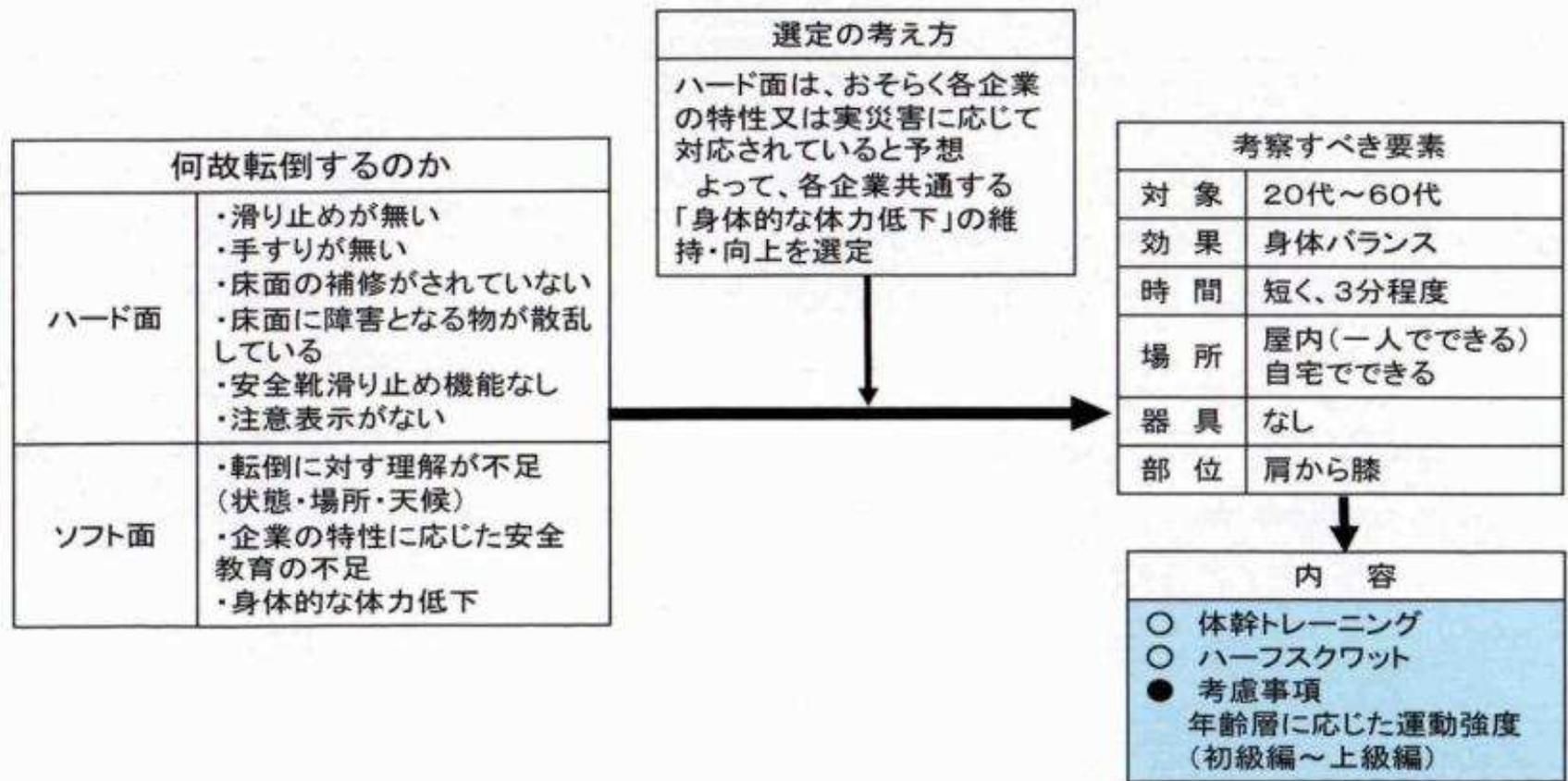
事例 -1 ゴム製品製造業

取り組み理由

ハード面における転倒災害防止は企業ごとの特性及び実際の災害発生事例に応じ対応されているが、労働者の身体能力低下も転倒の要因であり、これに対する対策も要すると考えられるため。

対策の内容

転倒災害防止対策の検討



次ページへ続く→

体幹トレーニング



姿勢: 背中からでん部まで一直線、ひじは直角に

| | |
|----|--|
| 初級 | 写真1の姿勢で、30秒を3セット (休憩は膝をつくか、そのまま伏せる) |
| 中級 | 写真2の姿勢で10秒を3セット (休憩は膝をつくか、そのまま伏せる) |
| 上級 | 写真1の姿勢から写真2の姿勢になるまで6秒 写真2の姿勢で10秒キープ 6秒で写真1の姿勢に戻る。 これを3セット |

事例 -3

ハーフスクワット



姿勢: 肩幅に足を開き、膝を平行にして立つ。

| | |
|----|--|
| 初級 | 5回を3セット |
| 中級 | 写真2の姿勢で3秒キープ5回を3セット |
| 上級 | 写真1から写真2の姿勢になるまで5秒、 写真2の姿勢で2秒キープ 4秒で戻る。 5回を3セット |

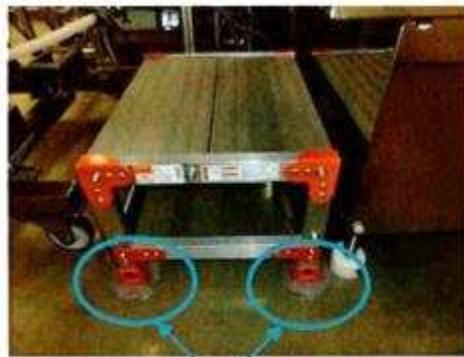
姿勢: 膝がつま先から出すぎない。
もどるときは、完全に立たない。

対策の効果は未把握であるが、以上のように、身体能力低下に対する運動方法(体幹トレーニング、ハーフスクワット)を回覧等で労働者に周知し、自宅等で行うことを推奨している。

事例 医薬品製造業

取り組み理由 設備導入時の安全パトロールにおける指摘事項対策として、改善を実施しました。

転倒災害防止対策の内容



円板取付箇所



踏み台底面写真

床面からの高さ1,575mmの位置にあるホッパーに、資材を投入する際に使用するアルミ製の踏み台(縦410mm×横500mm×高さ300mm)は軽量であるため、踏み台の端に足を掛けて乗った場合、踏み台の反対側の脚が浮き上がって踏み台ごと転倒する恐れがあったので、脚底にφ120mmのステンレス製の円盤を取り付けて設置面積を広げることにより、踏み台の端に足を掛けて乗った場合でも、踏み台ごと転倒することがないように改善を実施しました。

対策の効果

踏み台の端に足を掛けて乗った場合でも、踏み台ごと転倒する危険性が少なくなりました。

事例 製造業

取り組み理由

昨年高齢の作業員が階段を踏み外し「ヒヤリ・ハット」の事故が置きかけた為。幸い直ぐに手すりをつかめたことで大事故に成らなかった。



階段の上り下りの際のルールが明確で無かったため、登る場合と下りる場合では降りる際の事故の可能性が高い為、降りる際には必ず手摺のある側を通行する事で安全対策とする。これを注意喚起する為、各階段の上り下りのルートが解るようにサインを付けた。



対策の効果

ルールを徹底する事で同じ事故の危険を削減出来ていると思われる。また毎朝朝礼にて安全唱和を行い注意喚起をしている為事故を未然に防げていると思われる。

事例 製造業

取り組み理由

勾配がきつく危険だった為

効果

階段の昇降が楽になった。壁に取り付けた手摺を使うと靴の履き替え時に転びそうになっていたことが解消された。

事務所に上がる階段改装
勾配を緩くし、手摺を付けました



工場内通路床に滑り止めシートを張りました

取り組み理由

凹凸があったため、雨天時浸入水により、床が滑りやすかった

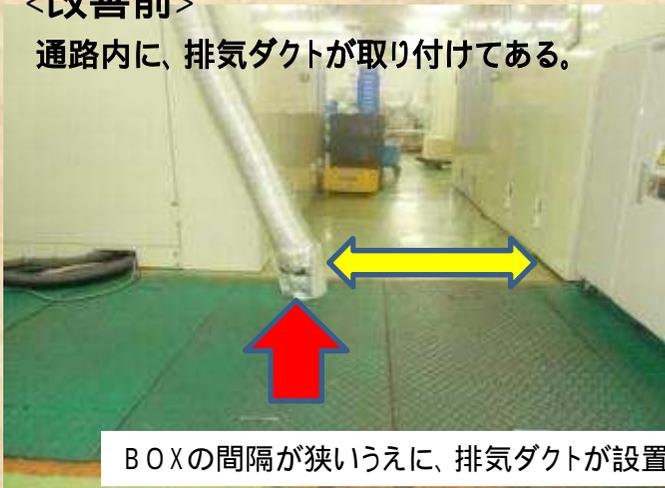
効果

作業通路の凹凸がなくなり、水はけも良くなったため、転倒防止となった

事例 製造現場(第一係)

<改善前>

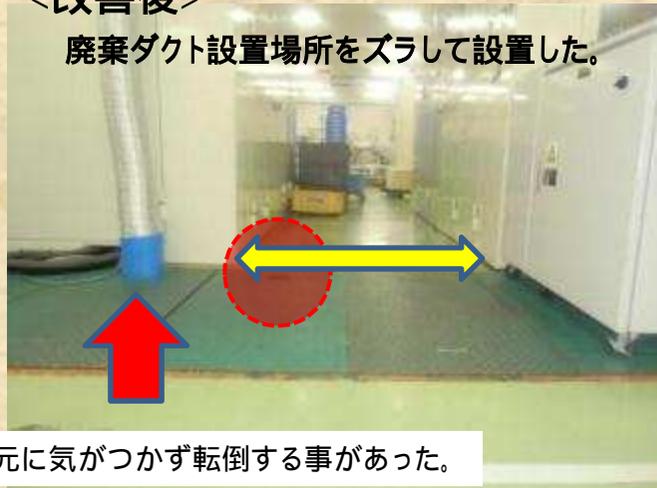
通路内に、排気ダクトが取り付けられている。



BOXの間隔が狭い上に、排気ダクトが設置されており、足元に気がつかず転倒する事があった。

<改善後>

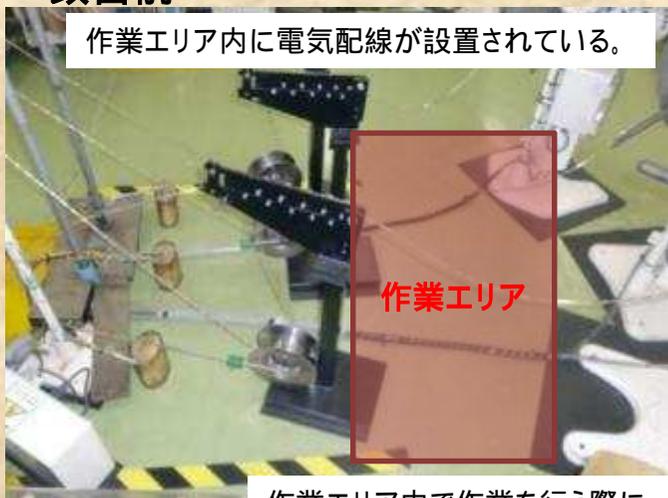
廃棄ダクト設置場所をズラして設置した。



対策の効果・・・ 通路(作業スペース)の幅が90cm 100cmに広がった。
接触の可能性も無くなり、常に足元を意識せずに作業が行えるようになりました。

<改善前>

作業エリア内に電気配線が設置されている。



作業エリア内で作業を行う際に、足に引っかかり転倒する可能性があった。

<改善後>

エリア内の電気配線をまとめた。



対策の効果・・・ エリア外に電気配線をまとめた事により、作業中での引っかかりが無くなった。
作業性も上がり、スムーズに作業が行えるようになりました。

事例 製造現場(第二係)

取り組み理由

金型棚から、金型を出し入れする際に金型に付着しているスクラップや油が足元の床にこぼれ落ち、そのスクラップや油を、踏み付けて現場を歩き回る事により、現場全体の床の油汚れが広がり、作業中での足元が滑りやすくなり、転倒の恐れがありました。

<改善前>



<改善後>



対策の効果

専用のオイルパンを設置する事により、スクラップや油が直接、床に落ちる事無く、オイルパン上で落下する為、通路への汚れの広がりが無くなった。
また、オイルパン上の清掃を毎週末に清掃するルールとして進める。

事例 製造現場(第二係)

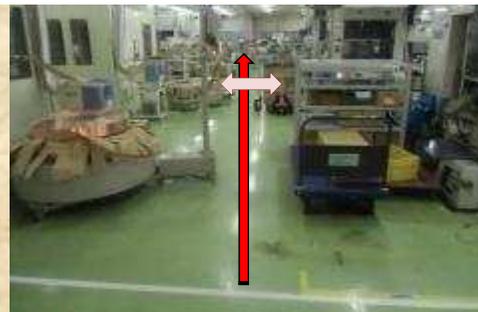
取り組み理由

加工エリアから、手洗い場への最短距離でもあり、どうしても通過してしまうところが見受けられた。その際、体に接触し転倒の可能性が高かった。

<改善前>



一部、加工エリア内のスペースが狭い箇所がある。



<改善後>



チェーンとポールを購入し、設置しました。



対策の効果

安全性を考え、プラスチック製のチェーンとポールを使用。
基本ルールとして、通過禁止としました。

どうしても、作業が必要な場合はリーダーに報告し、安全性を確かめて作業を行う様にする事とする。

事例 製造現場(第二係)

取り組み理由

自然災害(地震等)の発生や、人及び、台車等の接触による、ホース棚が倒れ、人が下敷きになる可能性がある。実際に、倒れはしていないものの、接触は発生していた。

<改善前>



ホース棚が耐震対策がされていなく、地震や、台車等の接触による棚の転倒の危険性大。

<改善後>



鎖で転倒防止対策を行った。

対策の効果

基本、プレス機が倒れるか、鎖が切れる事がないかぎり、棚の転倒は無くなったと判断します。他のホース棚への横展開を即対応する。

事例 製造現場(全体)

取り組み理由

蛍光灯の交換や、エアー配管、プレス機清掃時に、脚立が必要になります。上段での足場での作業が不安定で、人の転倒の可能性が高いと感じました。

<改善前>



脚立の老朽化によるグラつきが、感じられた。

<改善後>



作業的に安定した作業が行えるようになった。

対策の効果

脚立自体の形状を変更し、安定した作業もでき、登った状態で横への移動も可能になり、作業面でも効率よくなった。

事例 製造業

取り組み理由：階段昇降時の転倒・転落防止の為



対策の内容

赤外線センサー音色案内機設置(3台)による階段昇降時の安全呼びかけ

【呼びかけ音声内容】

- ♪手すりを持ちましょう⇒2機
- ♪右側通行をしましょう⇒1機

事例 ケーブル製造業

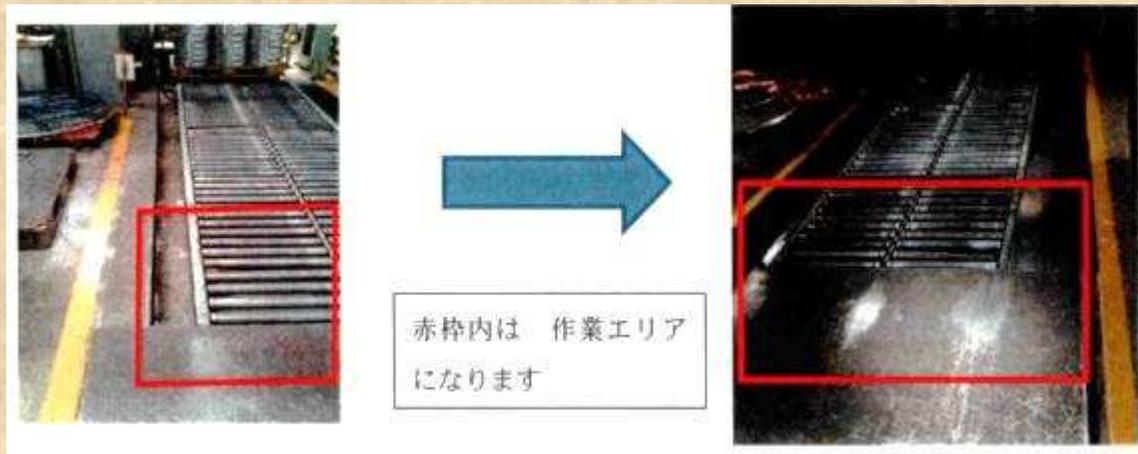
取り組み理由

作業者による危険予知活動で改善を実施しました。

対策の内容

コンベヤとピットとの隙間(幅15cm、深さ20cm)が開いていたことから、段差と隙間を解消するため鉄板を購入し、隙間を覆った。

また、鉄板にズレが生じないようにボルトで固定した。(ボルトは躓き防止に皿ビス(8mm)を使用)



対策の効果

足を踏み外し転倒する危険性が少なくなりました。

事例 建設業



ビーター足場の登り口に靴洗い場を設け、靴裏のドロによる滑りを防止している



足場通路の整理整頓、段差解除に心がけ、転倒、躓き防止措置としている

取り組み理由

足場を設置しての作業が多く、靴裏のドロによる滑りや通路内の整理整頓が悪く転倒、躓き災害が多く発生しているため。

結果

靴裏のドロによる滑りや足場通路での転倒、躓き災害は発生していない。また、足場通路の汚れも少なく、見栄えも良好であると思われる。



河川敷きでの工事で地盤が全て砂地であるため、通行ルート及び重機設置範囲全域に敷鉄板を設置している。

段差がないように設置はしているが、車両が多く通過すると段差が生じる箇所が発生する。転倒、躓き防止措置として、敷き直しを行うとともに場内制限速度や注意喚起の看板を設置している。

結果

多少の段差は発生しているが、転倒、躓きの災害はない。また場内速度を遅く制限したため敷鉄板の敷き直し作業が少なくなった。



堤防道路を工事用道路として使用している。この道路には光ケーブルのマンホールがあり、工事用車両の重量に耐えられないことから鋼材、アスファルトで防護をしている。

堤防道路は一般の歩行者、自転車、許可を受けた地元農家の車両等が往来するので、転倒防止措置として、鉄板に滑り止めを施しアスファルトにて摺り付け舗装を行い、ラインファルト及び注意看板を設置している。

結果

工事用車両だけでなく、ジョギングや散歩、サイクリング等一般の通行も多いが特に苦情もなく、城陽市や近隣学校のマラソン大会等も行われており効果があったと考える。



事例 -1 建設業

階段に転倒災害防止の標識設置

通用階段に標識を設置して転倒防止



↑自作の標識を設置
目線の高さに設置

↓市販品の標識を設置



事例 -2 建設業

指差呼称による転倒災害防止



毎月、「指差呼称ポイント」を設定して実施。

 **今月の指差呼称ポイント**

① 階段昇降時 「足元確認はヨイカ!」 「足元確認ヨシ!」

② 事務所最終退出時 「施錠・スイッチ確認はヨイカ!」 「施錠ヨシ!」 「スイッチOFFヨシ!」

③ 車両運転前 「タイヤ7つのチェックポイントはヨイカ!」 「チェックポイント確認ヨシ!」

| 指差呼称指揮者 | 全員 | 指差呼称実施者 | 全員 | |
|---|----|--|----|---|
|  | ⇒ |  右手を振り上げながらは床面に高いかき足元確認する際 | ⇒ |  確認出来たら大きな声でヨシ!と呼称対象に右手を振り下す。 |

右手は必ず常に人差し指で呼称対象を指差し。

取り組み内容 階段昇降前に「足元ヨシ!」

と指差呼称を行い、**足元を再確認している。**
降りる時も実施している。

効果 標識の無い階段でも指差呼称を行うことで、**慌てない階段昇降**が出来るようになった。

事例 建設業

誰もが安心して働ける、つまづかない、滑らない、安全な通路を確保する。



階段部を滑り止めテープで段差表示



開口部の養生蓋は床と同面



立上りと階段を同面にして余計な段差解消



敷き鉄板のスロープに滑り止めの鉄筋を溶接



整理整頓の意識を高める啓蒙看板



安全通路をA型バリケードで区画



安全通路をA型バリケードで区画



毎日の朝礼で安全通路・立入禁止エリアを周知



安全通路・立入禁止エリアを示した配置図

対策の効果

多数の作業員が従事する職場において、利用しやすく、安全な通路を確保することができた。

事例②① 建設業



取
り
組
み
理
由

現場周辺には平安神宮、みやこめっせ等、人が集まる施設があり人通りが多い。
歩行者には段差のある箇所を明示することで注意喚起し、転倒の可能性を下げる為。

対
策
の
効
果

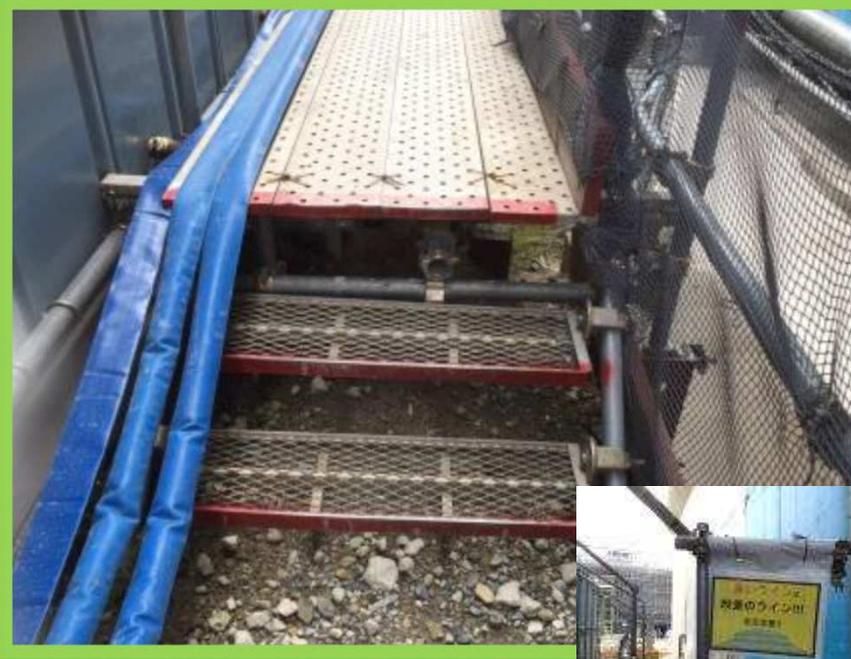
工事着工し、2年半程経過しているが、第三者からの躓き・転倒などの報告はない。

取
り
組
み
理
由

現場周辺には段差箇所が各所にあり、転倒する可能性がある。
目線の高さには、段差への注意喚起看板を設け、実際の段差部には赤いラインを引いている。

対
策
の
効
果

ちょっとした段差にも赤いラインを引くことで、作業員全体の転倒防止に対する意識が強くなった。



事例② 建設業



取り組み理由

現場周辺には段差箇所が各所にあり、転倒する可能性がある。
目線の高さには、段差への注意喚起看板を設け、実際の段差部には赤いラインを引いている。

対策の効果

ちょっとした段差にも赤いラインを引くことで、作業員全体の転倒防止に対する意識が強くなった。

取り組み理由

現場内通路を横断している配管等には、人に限らず車両等も転倒する危険性がある為、鉄板にて覆い、安全な通行ルートを確認している。また、赤いラインを引き段差を明示している。

対策の効果

現場内で、通行ルートでの作業員や車両の転倒はない。



事例⑳-1 建築事業

取り組み理由

当作業所は床段差が多く、躓きによる災害が起こりやすいと考えられたため、「見える化」を図ることで注意喚起を促すよう、対策に取り組んだ。

対策の内容



スラブ段差部の危険表示



作業通路の明確化



スラブ開口蓋のフラット化



適切な照度の確保

次ページへ続く→

事例⑳-2



敷き鉄板段差部の危険表示



危険箇所の立入禁止表示



災害事例を使ったKY活動



安全パトロールによる危険箇所のチェック

対策の効果

作業通路、床段差部を明示することで、注意喚起が図れたことに加え、現場内を整然とした状態に保とうという意識が高まり、現場が引き締まったという効果が生まれた。

事例②④-1 建設業

対策の内容

作業員が現場へ入場する前に鴻池組のスローガンである『回りに一声、自分に対して一呼吸』という垂れ幕を設置して、あせらずに、落ち着いて仕事へ向かえるよう啓蒙している。



作業員現場入口においてスローガン設置



対策の効果

垂れ幕設置により作業員が落ち着いて作業ができていると感じます。現場の中も通路上に資材が置かれたり、ゴミが放置されるようなこともなくなり、職員・作業員共々安全意識が高まったと感じます。

次ページへ続く→

事例 ⑳-2

対策の内容

工事現場車両搬入路において車両通行時に既設砂利舗装を傷めないよう敷き鉄板養生を行っている。スロープとなっており、雨天時にスリップによる転倒災害を避けるために敷き鉄板は通常のは平鉄板ですが、縞鋼板となっている敷き鉄板を使用しました。また、敷き鉄板のズレ止めとしてフラットバーを用いて互いに溶接固定を行っておりますが、6mm程度の凹凸となるので、視覚的に分かるようトラテープによる明示を行いました。さらに敷き鉄板端部は22mm程度の段差が出来るため、平滑になるようフラットバーを固定溶接行い、その上にトラテープを貼り行いました。

現場内安全通路表示看板



作業員通路



敷き鉄板端部を平滑になるようフラットバーを溶接固定

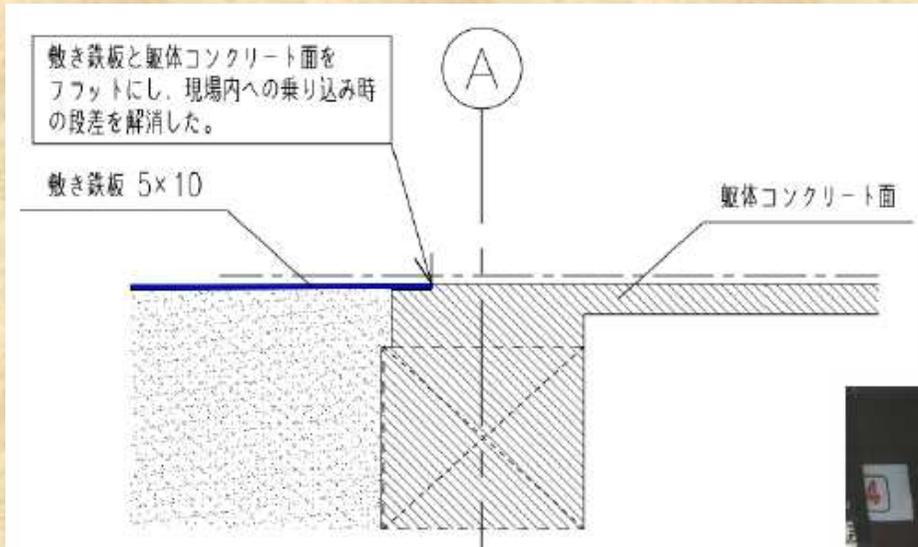
対策の効果

小さな段差も視覚的に分かりやすくし、歩行時におけるつまづき・転倒災害が発生しておりませんので、そのような事故を未然に防ぐことができています。



敷き鉄板ズレ固定用フラットバーの上にトラテープ貼

事例②⑤ 仮設鳶工



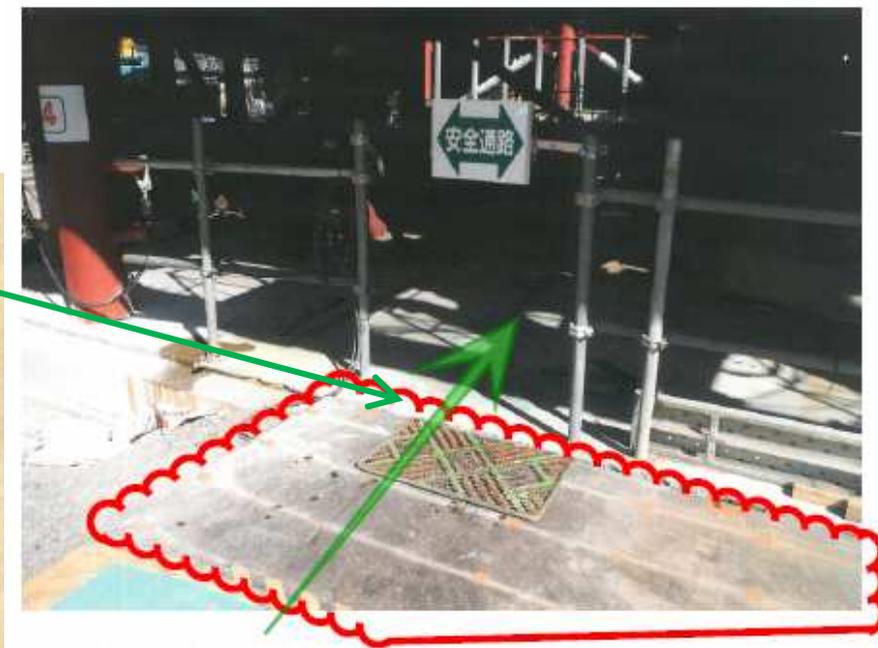
躯体コンクリート面のヌスミを利用して敷き鉄板の高さ調整を行い、乗り込みをフラットにした。

対策の効果

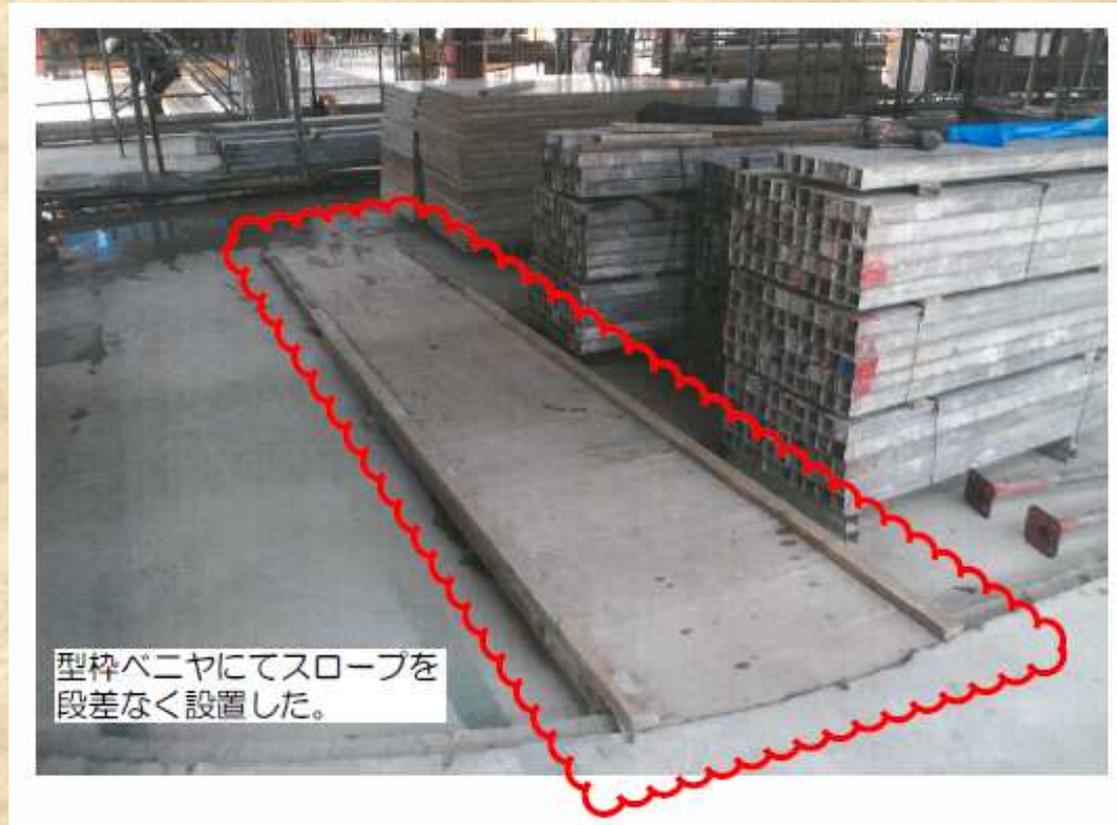
現場内にハンドルパレット等で資材の取り込みも可能となり、つまづきやすい小さな段差をなくしたことで、事故・怪我を未然に防ぐことができています。

対策の内容

現場内のメイン動線となる箇所の入口において、搬入および現場作業員が乗り込みやすいよう考慮し、敷き鉄板と床躯体コンクリート面に段差をなくした。これにより、搬入および歩行しやすい状況をつくり転倒・つまづきによる災害のリスクを低減した。



事例②⑥ 型枠大工



対策の内容

スラブ段差部分に型枠ベニヤにてスロープを作成し、資材取り込み時にハンドパレット等を使用できるようにした。

対策の効果

資材の取り込み時に荷崩れ等の事故を防止することができ、小さな段差もなくしたことで歩行時のつまづき・転倒災害を防ぐことができています。

事例②⑦ 建設業



護岸工として堤防に張ブロックを設置しているが、わずかな段差においても飛び降りやよじ登りをしないよう昇降設備を設置している。

取り組み理由

高低差があまりない段差は見落とされがちで、飛び降りやよじ登りをしてしまう傾向にある。低い位置からの落下で踵の骨折などが報告されており、当現場では昇降階段を設置した。

対策の効果

昇降階段があるとそこを通行するようになる。転倒災害防止には効果があると思われる。



河川内工事であるため地盤が砂地で重機作業位置だけでなく、車両通行ルートにも全面に敷鉄板を設置している。(約2000枚) 工が進むと敷鉄板のズレや段差が発生する。当現場ではこまめに敷鉄板の敷き直しを行い、転倒・躓きを防止している。

取り組み理由

敷鉄板での転倒・躓き災害や敷鉄板の跳ねによるはさまれ災害が多く報告されている。当現場では敷鉄板が不可欠であることから、敷鉄板による災害撲滅のためこまめに整備することとした。

対策の効果

歩行や車両の通行が非常にスムーズに行われている。重機の足場としてまた通行ルートとして安全、安心な状況が継続していると思われる。

取り組み理由

構築工事になるとビティ-足場を組み内側にブラケット足場を張出し、そのブラケット足場上での作業が多くなる。足場上や通路を整理整頓することで、転倒・躓き災害を防止すると共に落下物災害防止にも効果があるため整理整頓を心掛けている。



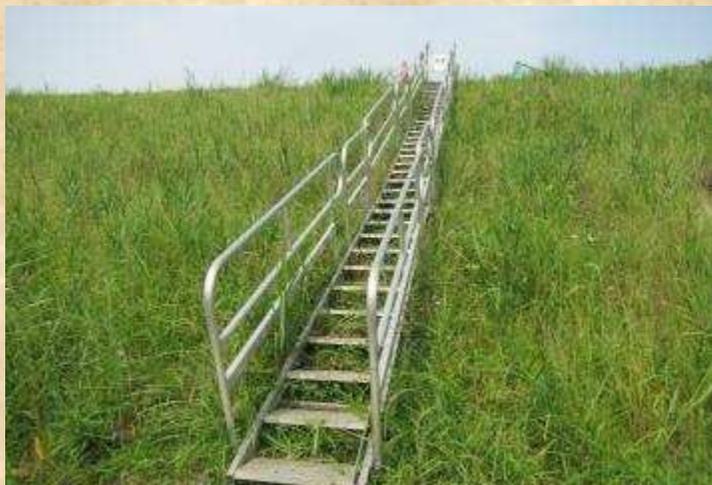
足場通路およびブラケット足場上の整理整頓、段差解除に心がけ、転倒、躓き防止および落下物による災害防止措置としている。



対策の効果

転倒・躓きの事例はなく良好な状態であると思われる。また落下物による災害やヒヤリハットも発生していないため対策の効果はあったと思われる。

事例⑳ 建設業



堤防の内外および堤防上で工事があるため堤防を昇降することが多い。草の上は雨の日などは非常に滑りやすいため仮設の昇降階段を設置した。

取り組み理由

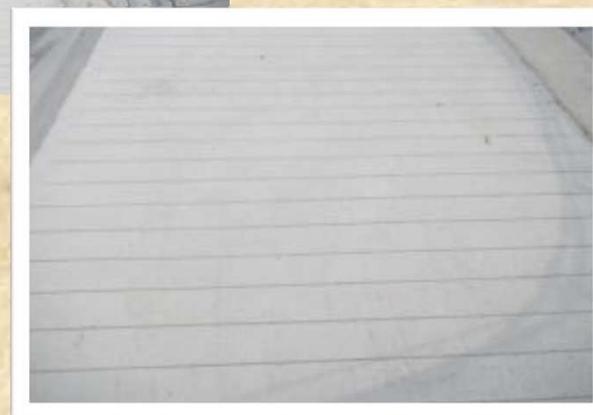
堤内、堤外および堤防上で工事を行うため、堤防を昇降することが多い。堤防を直接歩くことは可能であるが、雨の日等は非常に滑りやすいため、仮設の階段を設置した。

対策の効果

堤防の昇降が滑ることもなく非常にスムーズかつ安全に行われている。手摺も付いているので足への負担も軽減されていると思われる。



堤防の通行斜路に滑り止めとして、コンクリートカッターにて溝を設置した。



取り組み理由

工事中は仮設の通路として、竣工後は一般の堤防通路として利用される。箒目仕上げが却下されたためコンクリートの打ち放しだと雨の日など滑りやすいため滑り止めとして溝を設置した。

対策の効果

現状は工事中の仮設通路として利用しているが、雨の日も滑ることなく安全に通行できている。

事例⑳-1 建設業

取り組み理由

建物スロープ入口に設置するグレーチング溝枠を躯体に打込んでおり、施工期間中は工事車両及び作業員の動線となり踏み抜き及び躓きによる転倒災害のリスクが高い為。



対策の効果

当該部分に、縞鉄板を設置し段差の解消に取り組んだ結果、関連災害の防止に繋がった。

取り組み理由

内部鉄骨階段の踏面のモルタルが後施工になるため、打設完了まで段差が生じ、躓き転倒災害の危険性が高い為。



対策の効果

アルミ製足場板(200X1,000 t=29 裏面溝付)を設置する事により、段差が解消されて足元も安定し 関連災害の抑止となった。

事例⑳-2 建設業

取り組み理由

室内PS・EPS等配管用の床貫通孔に可搬式作業台及び脚立の支持脚が脱落し、作業床等からバランスを崩し転倒及び落下するリスクが高い為。



対策の効果

コンクリート打設後直ぐに打込みボイドを撤去し、スチール製養生蓋を設置する事により、床貫通孔周辺での転倒災害等を防止した。

取り組み理由

- ・ピット開口部からの墜落及び転落災害の防止
- ・養生蓋の突起による躓きによる転倒災害の防止。



対策の効果

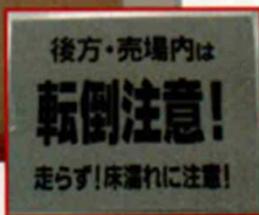
開口部の上部に、養生蓋(スチール製)を設置した事により段差や突起が解消され、安全性が確保された。

事例③〇 業種：各種商品小売業

バックラインの出入口等に「転倒注意」の掲示を行い、労働者に対する注意喚起を行っている。



・後方に転倒防止の掲示。



・売場へのドアに注意を促す表示(2か所)



・事務所前には社員の行動指針を掲示(100選) 13番目に床濡れ注意



事務所の見やすい個所に「社員の行動指針」として「転倒災害防止対策」を掲げて取り組んでいる。

(掲示内容：私たちは、雨の日には、通路が滑りやすくなっていないか気を配り、濡れて危険な場所はふき取ります。)

| 全部門共通項目 | | 指導項目 | 指導日 | トレーナー | トレーニー | | | | | | | | |
|---------|---|---|-----|-------|-------|----|----------------|-----------|----|----------------|----------|--|--|
| 劣異要因 | 項目No. | | | | | | | | | | | | |
| 転倒・転落 | 2 | 床濡れを見つけたら、すぐに拭き取る。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 3 | ラインからはみ出して商品を置かない。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 4 | どんなに急いでいても絶対に走らない。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 5 | カゴ車や空き箱など動くものや不安定なものに乗って作業しない。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 6 | 脚立の使用時は必ず開き止め器具をし、天板(一番上)には乗らない。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 8 | 台車・カゴ車は目線以上の高さに物を積まない(死角にならないように)。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| 激突 | 9 | スイングドアの開閉部分に商品・資材・台車・カゴ車等を放置しない。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | 10 | 物を持ち上げる作業は、腰を落として持ち上げるものに体を近づける。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| 腰痛 | 11 | 重量物を扱う場合、男性は体重の40%の重さ、女性は体重の25%の重さまでに制限することが望ましい。18歳未満の場合、背骨が発達途中なので、右表の法定基準を超えない。これ以上の重さの物を扱う場合は、二人以上で作業することとする。 | ✓ | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <caption>＜最少労働基準＞</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>18歳未満</th> <th>19歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>継続作業 15kg、20kg</td> <td>10kg、20kg</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>継続作業 12kg、20kg</td> <td>8kg、15kg</td> </tr> </tbody> </table> | | 年齢 | 18歳未満 | 19歳以上 | 男性 | 継続作業 15kg、20kg | 10kg、20kg | 女性 | 継続作業 12kg、20kg | 8kg、15kg | | |
| 年齢 | 18歳未満 | 19歳以上 | | | | | | | | | | | |
| 男性 | 継続作業 15kg、20kg | 10kg、20kg | | | | | | | | | | | |
| 女性 | 継続作業 12kg、20kg | 8kg、15kg | | | | | | | | | | | |
| 落下 | 12 | 不安定な積み上げをしない。【低】位置管理を心がける。 | ✓ | | | | | | | | | | |

雇入れ時教育の際は、チェックリストにより「転倒」・転落等の労災要因を指導し、社員の安全意識の高揚を図っている。

取り組み理由

売場の基本として、店長自ら転倒防止について注意喚起を行い、社員の意識向上を図っている。

また、職場内で店長自ら危ない状況を見かけたら、従業員に注意するようにしている。

朝礼の際に、社員と会社の行動指針をチェックすることにより、自主的に転倒防止について注意喚起を行っている。

対策の効果

社員の意識が変わり、社員自ら、風紀委員を組織し、担当者が職場内の危ない状況を注意するなど自主的取り組みも実施している。

事例③① スーパーマーケット

平成24年10月に転倒事故があったため・・・

対策の内容

2種類のモップを用意
フローアの水分は転倒の原因になります。
水分がある場合、吸水性の高いモップと乾拭き用のモップ2本で水分を十分に
取れるように、店内3セット用意しています。
(清掃する場合のマニュアルも用意し定期的に教育)



作業場の中で特にすべりやすい油を使用する惣菜部は滑りにくい安全靴を全員着用、水気の多い鮮魚部は生ゴムの底面の長靴使用
雨の日は外からの水分の持ち込みがあるので、入り口にて大型吸水マットを使用
店内にて、ヒヤリ・ハット提案箱を設置
日常業務の中で、ヒヤリ、ハットするようなことがあれば改善するように提案して、労働災害を事前に防止する取組を行っている

対策の 効果

平成24年10月の転倒事故以後、以上の対策を行う事により、事後は起きていない。
従業員が労働災害防止に対する意識が向上し、安全で快適な職場作りに役立っている。

事例③② その他の商業

若干傾斜があるが、わかりにくいため傾斜で躓いて転倒することがよくあった。



階段部分の注意喚起



傾斜部分を明示



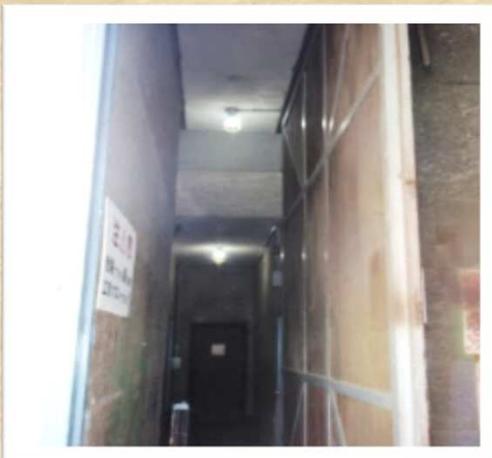
対策の効果

トラテープで明示することにより、視認性がよくなり注意できるようになった。
階段手前は、タイルをオレンジ色に張り替えたことにより目立つようになった。

事例③ 映画製作・配給業

取り組み理由

- ・作業場内を点検した結果、照度不足や用具、材料を床に置き転倒の危険が認められたこと。
- ・倉庫内の内部階段は、高所ではないものの手摺が無く、転落・転倒の危険があったこと。



転倒災害防止のため、通路に照明を増設した



用具・材料を床に置き、つまずいて転倒する危険があったため、棚を設置して整理した



倉庫内の階段に手摺が無く、転落・転倒の危険防止のために手摺を設置した

対策の効果

- ・照明を積極的に増設することにより、暗所が減り転倒災害の危険が少なくなったこと。
- ・棚を設置することにより、整理整頓が図られて転倒災害の危険性が減少したこと。
- ・改善点を写真撮影して安全衛生委員会で報告することにより、他職場への水平展開が図られたこと。

事例③④ 医療保健業(病院)

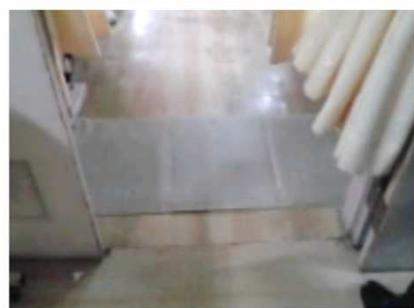
取り組み理由

・病室間の移動時及び看護時において、転倒する危険及び災害が認められたことから、通路(危険個所)へのゴムマットの敷設、介護時における専用マット等の使用の対策を実施した。

【看護用専用マット】



入浴看護時の専用マット



病室看護時の専用マット



レントゲン室専用マット

【通路の改善状況】



ゴムマットの敷設

効果

- ・専用マットの使用により滑りにくくなった。
- ・転倒災害に対する危険認識が高まった。
- ・転倒した場合でもマット等により負傷等にまで至らなくなった。

事例③⑤ 医療保健業（健診機関）

取り組み理由

事務所間等の移動時において、出合頭での「ぶつかり」等で危険及び災害が認められたことから、廊下の曲がり角にカーブミラーを設置した。

対策の内容【通路の改善状況】 カーブミラーの設置



対策の効果

* 人同士のぶつかりによる転倒災害が大幅に減少した。

* 転倒災害に対する危険認識が高まった。

事例③⑥ 社会福祉施設

取り組み理由

当該事業場(社会福祉施設)では、介護等の業務において、転倒する危険性が多く認められたことから、4S活動を踏まえ「ヒヤリ・ハット活動(転倒防止が中心)」を全社員で取り組んでいる。

【ヒヤリ・ハット活動/転倒防止チェックシート】

転倒等による労災事故につながるよう、普段の行動やヒヤリハット事例を確認しましょう！
業務ミーティングを活用し、ヒヤリ・ハット事例や危険箇所について話し合いを行い、改善を図りましょう！

ヒヤリ・ハット事例 (これまでに経験したことのある、または報告を受けているヒヤリハット事例を1つ記入しましょう！)

| | | | | |
|------|------|-------|----|-------|
| 発生時期 | 発生場所 | 発生の状況 | 原因 | 今後の対策 |
| | | | | |

ヒヤリ・ハットを招きかねないリスク要因について、以下の項目を確認しています。
内容を確認後、チェックがついた項目については、どのようになれば危険防止になるのか
上司へ相談したり、業務ミーティングで話し合う等を行い、改善策を図りましょう！

| リスク要因 | チェック項目(内容確認) | チェック欄 |
|------------|---|-------|
| スタッフ 自身 | 1 持病があるが、病状や状態を把握せず、日常生活の行動を控えていませんか。 | |
| | 2 年齢や過去の怪我等により、身体能力の低下が見受けられませんか。 | |
| | 3 常に膝不具合状態になっていませんか。 | |
| | 4 疲労により、身体・精神が疲れていませんか。 | |
| | 5 身体が疲れていても無理をしよう等、自分の体力を過信していませんか。 | |
| | 6 夜勤が合わない状態を続ける、睡眠不足を繰り返す、身に合わない服装をしていませんか。 | |
| | 7 「転倒防止」を念頭におき、危険箇所を持って行動していますか。 | |
| | 8 過去1年間で転倒して怪傷をしたり経験がありますか。 | |
| | 9 お客様にケアサービスを提供するにあたり、必要な介護技術が不足していませんか。 | |
| | 10 サービス提供を行う場所・箇所等に段差などの危険はありませんか。 | |
| 作業 環境 | 11 施設内において段差平準化になっているものはありませんか。 | |
| | 12 日々の天候状態を確認していますか。(雨、雪、台風、突風など) | |

対策の効果

全スタッフに「(個人配布用)ヒヤリ・ハット活動/転倒防止チェックシート」に配付し、自身、就業環境、業務運用について、自己チェックすることにより、転倒災害に対する危険認識及び対策の必要性が高まった。

【ヒヤリ・ハット活動/転倒防止リスク確認表】

| 拠点名 | サービス名 | 担当者 | チェック状況 | 実施済 | 実施済でない |
|-----|-------|-----|--------|-----|--------|
| | | | | | |

転倒等による労災事故につながるよう、ヒヤリ・ハット事例を確認しましょう！
業務ミーティングを活用し、ヒヤリ・ハット事例や危険箇所について話し合いを行い、改善を図りましょう！

| 発生時の状況 | 原因 | 今後の対策 |
|--------|---|-------|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | 発生時の状況: 入浴介助時、足を滑らせ転倒しそうになった。利用者に意識なくひやりとした瞬間だった。 原因: 右膝木をしっかり滑らせていなかった。 今後の対策: ご利用者の足元だけでなく、自分自身の足元もしっかり滑らせないか確認を行う。 | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |

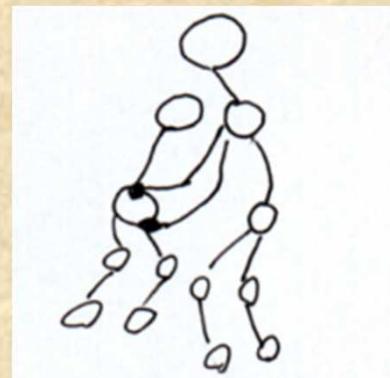
対策の効果

事業場は、各スタッフから寄せられた転倒に係るヒヤリ・ハット事例について、要因と今後の対策を記載した「ヒヤリ・ハット/転倒防止リスク確認表」を作成し、ヒヤリ・ハット事例を全社員に周知、共有化することにより、転倒災害防止が図られていること。

事例③⑦ 高齢者施設の介護職員

下記の内容について、報告書を作成し、カンファレンスで対応の徹底を担当職員間で行った。

- ・ご利用者を床から前がかえで起き上がる介助の際は、立位時に相手の足が必ず床につくようにする。
- ・介助時は利用者の身体をしっかり支えられるよう、重心や足の幅等、職員側の体位の安定を図ってから介助を行う。
- ・上記2点に加え、利用者の行動の予測ができていなかったことが大きな要因の一つとしてあげられるので、単独で介助に入る前には、状況確認をしっかり行うことを心掛ける。



対象利用者は活気がある時にはいざって動かれる事もあり、畳に布団対応となっているが、今回の事故だけでなく、ご本人のベッドからの転落防止にも効果が期待できるため、高さ110mmの超低床ベッド(40万円前後)の次年度購入を検討している。

取り組み理由

高齢者入所施設にとって、突発的な事象によって発生する転倒等の事故によって職員が負傷し、従来の与えられた業務に就けなくなることは個々の特性により異なった介護をそれぞれ必要とする入所者にとって著しく生活を阻害される要因になる。

対策の効果

昨年の事故発生より、現在(H27.3.4)まで同事業所にて同様の突発的な事故は発生していない。

事例⑳ 社会福祉施設



リフト用のシートを準備する



被介護者の身体の下にシート敷き、仰臥位になってもらう。リフトのフックを被介護者の上にセットする。



(ベッドの背もたれを上昇させ、)リフトのフックにシートのストラップを掛けて、被介護者の身体を支えながらリフトを手元のリモコンで上昇させる。



被介護者が車いすに座れたことを確認したらリフトのフックからシートのストラップを外し、シートを抜き取る。



車いすの位置に調整できたら、リフトを下降させる。



リフトを上昇させたら、被介護者が車いすに下降できるよう被介護者はそのまま、リフトの向きを変えて位置を調整する。

取り組み理由

ベッドと車いすとの間等、施設利用者の移乗介助をする際に、職員が利用者とともに転倒するおそれがあるため、リフトを使用することにより、転倒災害の防止、腰痛の予防につながる。

対策の効果

リフトを導入した当初は、転倒及び腰痛の予防についての職員の意識が低く、リフトの使用方法が分からない、操作に自信がないなどの理由で、リフトの使用率が低い状況にあったことから、使用方法の再確認や技術の向上等を目的としてリフトの技術を競うコンテストを開催して職員に気軽に参加してもらい、職員のリフトの使用率及び技術が向上した。その結果、平成25年から転倒・腰痛災害は発生していない。

事例③⑨ 社会福祉施設

取り組み理由

入浴介助中の職員が臥位浴中の担架を浴槽からストレッチャーに移動させる際に、ストレッチャーの台の上で足元が滑り、そのまま後方に転倒する災害が発生し、頭部を床に強打した。その時は大事には至らなかったが、同様の労働災害が再発すると命に関わる事故になるおそれがある。

転倒災害防止対策の内容

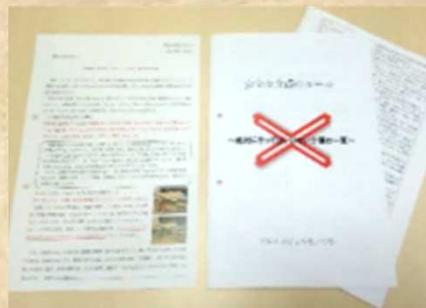
浴室のストレッチャーの滑り止めマットの使用を徹底するため、転倒災害の発生状況、災害発生原因、再発防止対策について検討し、機械浴(臥位浴)のストレッチャー使用時の注意点について、写真等を活用して整備した資料を各労働者に周知し、指導・教育を実施した。

【転倒防止用の滑り止めマット】



滑り止めマットは取り外し可能であり、洗浄して乾かした後に滑り止めの取付け作業を怠ったことから転倒災害が発生した。

【介護マニュアルに追加更新】



事故発生から2日目に事故の状況、原因と対策を全職員に通知。介護マニュアルを追加更新し、年1回必ず研修を実施している。



対策の効果

転倒防止用の滑り止めマットの使用にかかる指導・教育を徹底した結果、平成24年3月から転倒災害は発生していない。

事例④⑩ 食品製造業

対策の内容



「足場洗いの段差でつまづく」と、ヒヤリハット報告があり、くぼみを埋めてしまい、構造的に段差をなくし、新たに長靴洗い機を設置しました。

本事例集は、平成27年に京都労働局が収集作成したものです。

佐賀労働局健康安全課